

## 10月18日は「東アジア保険の日」

～ 城田協会長がメッセージを発信 ～

日本損害保険協会(会長:城田 宏明)では、情報・意見交換を通して、海外の損害保険市場との相互理解・交流を推進しており、1962年に東京で発足したアジア最大の国際保険会議である「東アジア保険会議」(East Asian Insurance Congress: EAIC)にも、生命保険協会と連携をとって積極的に参画しています。

EAICの定めた「東アジア保険の日」(10月18日)を迎えるにあたり、城田協会長のメッセージ(添付1)を、国内外に向けて発信します。

アジア全体の保険市場が健全な発展を遂げ、社会・経済の発展に貢献していくために、EAICの場で行われている活動について、ご理解いただく一助となれば幸いです。

### 添付資料

1. 「東アジア保険の日」を迎えて(日本損害保険協会 城田 宏明 会長)
2. EAICの概要



2024年10月18日

## 「東アジア保険の日」を迎えて

一般社団法人 日本損害保険協会  
会長 城田 宏 明

東アジア保険会議（East Asian Insurance Congress: EAIC）が定めた「東アジア保険の日」（10月18日）の18周年を迎えるにあたり、日本損害保険協会を代表してご挨拶を申し上げます。

はじめに、自然災害の被害に遭われた各国・地域の方々に対して心よりお見舞いを申し上げます。  
また、被災地での救助・復旧活動等に携わられた方々に深く敬意を表します。



EAICは東アジア各国・地域の保険関係者が集い、東アジア保険市場の研究を行い、あわせて各国・地域間の親善を深めることを目的に1962年10月18日に発足し、第1回東京大会が開催されました。当初、海外からの参加者はわずか20数名程度であったものの、先月、開催された香港大会では、世界30以上の国・地域から1,000名以上の保険関係者が集まるアジア最大の保険会議へと発展しています。

そうした歩みを進める中、2006年には、東アジアの各国・地域における保険の果たす役割・重要性やEAICの活動への理解促進に取り組むことを目的として、東アジア保険の日が制定されました。東アジア保険の日を通じて、保険セクターの役割・重要性を再認識し、各国・地域における保険の浸透をより一層促進することは、東アジアの経済社会の健全な発展に資する重要な取組みであると認識しております。

また、当協会は、国連貿易開発会議（UNCTAD）とEAICからの要請を受け、東アジア各国・地域の保険業に携わる方々を対象とした国際的保険技術支援プログラムである日本国際保険学校（ISJ）を1972年から毎年開催しています。東アジア各国・地域の保険業に携わる方々のお役に立ちたいという目的から発足したISJは長い歴史の中で約2,300名の卒業生を輩出し、損害保険の教育研修のみ

ならず、国・地域を超えた参加者間の繋がりを提供する場として、参加各国・地域の保険関係者から高い評価をいただいております。

当協会では、この東アジア保険の日に、保険の果たす役割・重要性や EAIC の活動に対する理解を広く周知するため、引き続き次の取組みを行ってまいります。

1. ホームページ、保険業界紙を通じた広報活動
2. ISJ 卒業生のネットワークを活用した、東アジア保険の日の祝賀および次回 EAIC 大会への参加呼びかけ

損害保険業界は、損害保険という相互扶助の精神からなる社会インフラ機能の提供を通じて、安心かつ安全で持続可能な社会の実現と、経済及び国民生活の安定と向上に寄与していくことを使命としております。

気候変動による深刻な影響や世界規模で激甚化・頻発化する自然災害など、我々を取り巻く社会や経済の情勢は日々複雑さを増し、先を見通すことが困難な時代となっております。そのような不確実な時代だからこそ、保険が提供する「安心と安全」が人々の生活や新たな一歩を支える力になると信じております。真に社会から必要とされる業界を目指し、社会インフラとしての保険機能をこれまで以上に発揮していけるよう一層尽力してまいります。

この東アジア保険の日が、東アジア各国・地域の保険業界で働く皆さまにとって、社会課題の解決に向けて保険機能が果たすべき役割や、EAIC を通じた東アジア各国・地域間の協力・連携することの重要性を改めて考えるきっかけとなることを心より願っております。今後の東アジアの保険市場の益々の発展を祈念して、お祝いの言葉といたします。

以上

# EAICとは？

- East Asian Insurance Congressの略で、和文では「東アジア保険会議」といいます。
- EAICは、1962年に東京で発足したアジア最大の生損保合同の国際保険会議で、アジアの保険市場における「国際協力の促進と発展」を目的としております。
- 第1回東京大会の海外からの参加者はわずか20数名程度でしたが、現在では、参加者が1,000名を超える国際会議に発展しております。各市場の抱える共通の課題解決のための論議の場として、重要な役割を果たしています。
- 日本損害保険協会では、EAIC理事会メンバーへの就任や、大会へのスピーカー派遣等を通して、EAICに積極的に参画し、アジアの各保険市場との情報・意見交換、交流促進を図っております。



# EAICメンバー地域

## 正会員(12地域)

バンドルスリブガワン、バンコク、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マカオ、マニラ、プノンペン、ソウル、シンガポール、台北、東京

## 準会員(11地域)

オーストラリア、バングラデッシュ、ブータン、デンマーク、フィジー、インド、パキスタン、パプアニューギニア、スリランカ、イギリス、アメリカ

## EAIC会員数(2024年5月31日)

	法人会員	個人会員
正会員	919社	560名
準会員	31社	73名
合計	950社	633名



# これまでのEAIC大会主催地



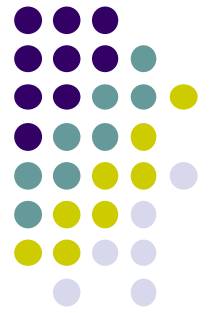
開催年	開催地	開催年	開催地
1962年(第1回)	東京	1994年(第17回)	ソウル
1964年(第2回)	マニラ	1996年(第18回)	シンガポール
1966年(第3回)	バンコク	1998年(第19回)	マカオ
1968年(第4回)	ソウル	2000年(第20回)	マニラ
1970年(第5回)	台北	2002年(第21回)	東京
1972年(第6回)	クアラルンプール	2004年(第22回)	バンコク
1974年(第7回)	ジャカルタ	2006年(第23回)	バンドルスリブガワン
1976年(第8回)	ソウル	2008年(第24回)	香港
1978年(第9回)	シンガポール	2010年(第25回)	ジャカルタ
1980年(第10回)	マニラ	2012年(第26回)	クアラルンプール
1982年(第11回)	東京	2014年(第27回)	台北
1984年(第12回)	バンコク	2016年(第28回)	マカオ
1986年(第13回)	香港	2018年(第29回)	マニラ
1988年(第14回)	クアラルンプール	2020年(第30回)	ソウル(新型コロナにより中止)
1990年(第15回)	台北	2024年(第30回)	香港
1992年(第16回)	ジャカルタ	2026年(第31回)	東京

- \* EAICは、2年毎に開催されます。開催都市は、メンバー地域のローテーションで決まります。
- \* 東京では、これまで1962年(第1回)、1982年(第11回)、2002年(第21回)の3回、大会を開催しています。

# 最近のEAIC東京代表理事

任期	大会主催地	東京代表理事（敬称略）	
1986年-1988年	クアラルンプール	高橋 壽常	日本生命副社長
1988年-1990年	台北	石川 武	大正会場会長
1990年-1992年	ジャカルタ	西尾 信一	第一生命会長
1992年-1994年	ソウル	有吉 孝一	安田火災社長
1994年-1996年	シンガポール	若原 泰之	朝日生命会長
1996年-1998年	マカオ	小野田隆	住友海上会長
1998年-2000年	マニラ	金子 亮太郎	明治生命社長
2000年-2002年	東京	樋口 公啓	東京海上会長
2002年-2004年	バンコク	吉野 泰生	住友生命会長
2004年-2006年	バンドルスリブガワン	松澤 建	日本興亜損保社長
2006年-2008年	香港	石橋 三洋	日本生命副会長
2008年-2010年	ジャカルタ	佐藤 正敏	損保ジャパン会長
2010年-2012年	クアラルンプール	斎藤 勝利	第一生命会長
2012年-2014年	台北	鈴木 久仁	あいおいニッセイ同和社長
2014年-2016年	マカオ	根岸 秋男	明治安田生命社長
2016年-2018年	マニラ	北沢 利文	東京海上日動社長
2018年-2022年	ソウル（中止）	橋本雅博	住友生命社長
		高田 幸徳	（同上。社長就任により交代）
2022年-2024年	香港	船曳 真一郎	三井住友海上社長
2024年-2026年	東京	清水 博	日本生命社社長

- ※1. EAICの東京代表理事は、1986年以降、生損保両業界から交互に選出することになっています。  
2. 東京代表理事の役職名は当時のものです。





# 最近のEAIC大会テーマ



- **第20回マニラ大会 (2000年)**  
“Rebounding from the Asian Financial Crisis: Strategies for Continued Growth”  
(アジア金融危機からの回復－絶え間ない成長のための戦略)
- **第21回東京大会 (2002年)**  
“Challenges and Opportunities for Insurance in the Changing World of Financial Services”  
(金融サービス変革期における保険業界の挑戦と可能性)
- **第22回バンコック大会 (2004年)**  
“Asian Insurers in the New Financial Environment”  
(新たな金融環境下におけるアジアの保険者)
- **第23回バンドルスリブガワン大会 (2006年)**  
“East Asian Insurance at the Crossroads of Growth and Profitability”  
(成長と収益性の岐路に立つ東アジア保険業界)
- **第24回香港大会 (2008年)**  
“Staying Ahead? – East Asian Insurers in the Era of Global Challenges ”  
(世界的な経済危機の中で、東アジアの保険会社は、一歩踏み出すことができるのか)
- **第25回バリ大会 (2010年)**  
“Going Back to Basics with a Dynamic New Mindset in Insurance ”  
(新たな革新的視点を持って基本に立ち返る)
- **第26回クアラルンプール大会 (2012年)**  
“Transforming the East Asian Insurers – Time for Action Now”  
(東アジア保険業界の転換 – 今、行動を起こすとき)
- **第27回台北大会 (2014年)**  
“Insurance at the Cross Roads – Coping wit the Change”  
(岐路に立つ保険 – 変化への対応)
- **第28回マカオ大会 (2016年)**  
“The Future of Insurance – Customer Centricity”  
(保険の未来 – 顧客中心主義)
- **第29回マニラ大会 (2018年)**  
“Managing Disruptions, Driving Change”  
(創造的破壊への対処、変化への推進)
- **第30回香港大会 (2024年)**  
“Back to the Future – Empowering East Asian Insurers for 2044 and Beyond  
Building on the Foundation and Exploring the Future”  
(未来への回帰 – 2044年以降に向けて東アジアの保険会社を強化する基礎を築き、未来を探る)